

医療コミュニケーション学・演習 (4 年前期分) Medical Communication

薬：F2-01302MY

医療科目 3～4 年／前・後期 1 単位 必修科目

科目責任者 町田 いづみ(医療コミュニケーション学研究室)

■ 教育目的

医療面談を通して、患者の治療に関するナラティブ、および、トータルペインについて理解し、それらを治療プランや服薬指導に反映させる。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-③、④】

■ 学習到達目標

- ・治療者としての適切な身なり言動をもって医療面談を行う(態度)
- ・双方向性の面談を通して患者の全人的情報を収集する(知識、技能、態度)
- ・患者の立場や価値観に立って話を聴く(技能、態度)
- ・患者の感情を感じとる(技能、態度)
- ・収集した情報をもとに患者の全体像を適切に理解・評価する(知識、技能)
- ・理解・評価した内容をもとに患者と共に効果的な治療プランを立てる(知識、技能、態度)
- ・患者と治療上の情報を共有する(技能、態度)
- ・医療面談の内容を適切に記録する(知識、技能)

■ 準備学習（予習・復習）

復習：3 年生での講義時に配布した資料をもとに復習する(60 分以上)

予習：演習資料を熟読し、事前学習レポート課題にそって予習する(120 分以上)。

■ 授業形態

実習・フィールドワーク

■ 授業内容

演習形式：ⅠⅡとも、学生は薬剤師として 1 人ずつ患者のベッドサイドにて面談を行う。模擬患者は全てプロの役者とし、可能な限り実臨床に近い状況を設定する。

各学生の演習日は演習日程表に示す 1 日で(この 1 日で演習ⅠとⅡを行う)。演習時間は 13:10 から課題終了までとする。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1-15	演習Ⅰ	①患者の治療上の問題点を抽出し、適切な治療プランと治療的介入を行う。 ② POS に基づいて、治療経過を SOAP 形式で適切に記述する。 ②患者の治療パートナーとして機能する。	A(2)-③-1 A(2)-③-4 A(3)-①-5～8 A(3)-②-2
1-15	演習Ⅱ	①双方向性の会話を通して、患者のナラティブを理解し、医療者間の共通情報として適切に記述する。 ②患者の治療パートナーとして機能する。	A(2)-③-1 A(2)-③-4 A(3)-①-5～8 A(3)-②-2

■ 授業分担者

すべての時間、町田いづみと白石奈緒美により行う。

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

3 年生後期の講義評価が 6 割(48 点)以上を 4 年生での演習参加条件とする。演習評価は全体の 20%でルーブリックにて評価する。演習への参加は必須とする。

■ 参考書

事前配布資料

■ その他

演習は予定日いずれかの 1 日(13:10 から終了まで)